

中学生の社会体験活動週間「トライやる・ウィーク」

兵庫県下の全中学2年生を対象として、地域に学ぶ中学生の社会体験活動週間「トライやる・ウィーク」が神戸市内でも本格的に実施されました。「トライやる・ウィーク」では日常の学校生活を離れた地域社会の中で、生徒達が主体的な活動や体験を通して、人としての豊かな心を育むことをねらいとしています。

北区の西二郎地区まちづくり協議会では、有野中学校の生徒4人を受け入れ、11月9日から13日まで5日間に渡って、地域のまちづくりについて考えてもらうためのワークショップなどを行いました

1日目は西二郎地区のまちづくりについて、現地の指導ボランティアから説明を受けた後、一緒にまちを歩きました。2日目には前日のまち歩きでの観察結果を、「発見マップ」としてまとめ、発表しています。西二郎の名所として「いな笹原地蔵」や「六地蔵」を選び、お寺などもあわせた歴史的な資源や自然が良く調和したまちという感想も出ました。3日目は農業について現地の人から話を聞いて、実際に農作業を体験しました。豆を植えたり吊し柿を作ったり、大根や小松菜を収穫しました。4日目はまちづくりセンターを見学し、ホームページ用データやまちづくりニュースの原稿も作成しています。5日目はこれまでの体験で感じたことを、より良いまちになるような提案を発表しました。提案では、池のある広い公園や商店街、売り物として二郎特産のイチゴ入り牛乳などができればという構想が盛り込まれています。

まちの良い点としては、①柿がおいしい②自然がたくさんある③溝に流れている水がきれいということを発見し、良くない点として①道が狭い②急な坂道が多いことを挙げていました。



まち歩きでの観察結果を、「発見マップ」としてまとめました。体験活動に参加した中学生の感想として、「初めての経験で色々なことが学べました」「農業や干し柿づくりは、初めての体験だったので楽しかったです」「こんな所に住んでみたいと思いました」「ここで学んだことを、これからの経験に活かしていきたいです」などが出され、それぞれにとって貴重な体験になったようです。



農作業を体験し、大根も収穫しました



二郎特産のイチゴ入り牛乳などの売り物や商店街の構想を、提案としてまとめました

☆さまざまな災害への理解を深める～入門講座ダイジェスト

専門家による講演会の形式で、防災や防犯などについて専門的な知識を習得する「入門講座」。前半の3回の講座では、さまざまな災害について学んできました。以下に、講座の内容をダイジェストでお伝えします。

①土砂災害（9月3日・神戸大学都市安全研究センター 沖村 孝 教授）

神戸はこれまで、昭和13年、39年、42年など過去に何回も大きな土砂災害に見舞われてきた。神戸にとって、六甲山系の土砂災害は避けることのできない大きな課題である。対策工事の着実な推進によって被害は次第に少なくなってきたが、六甲山で約30年周期で集中豪雨が起きていることを考えると現在は危険な時期に入っていると言える。行政として備えが必要なのはもちろんだが、市民の皆さん一人ひとりが地域でのコミュニティ活動の中で防災に取り組むこと、そして過去の災害の教訓を生かし将来に伝えるようにしてほしい。

②地震災害（10月1日・神戸大学都市安全研究センター 石橋 克彦 教授）

阪神・淡路大震災を経験した神戸の皆さんには、もうあのような大地震は二度と起きてほしくないという気持ちが強いと思う。しかし、今後も神戸・阪神間では、浅い直下型大地震の発生や南海巨大地震、フィリピン海プレート内部での大地震など、さまざまな地震により大きな被害を受ける可能性がある。阪神・淡路大震災は決して特別大きな地震ではなく、前回の震災で大丈夫だった建物が次回も無事である保証はない。自然の力をあなどらず、心だんから防災意識を高めるように心がけてほしい。

③津波災害（11月5日・京都大学防災研究所 河田 恵昭 教授）

先日パプアニューギニアを襲った大津波災害は、私たちに津波の恐ろしさを改めて認識させた。これまでの歴史上、南海地震は東南海地震とセットでおおよそ90～150年周期で発生し、津波災害を引き起こしている。これまでの津波災害はすべて近代化前の地方集落を襲ったものだが、今後は近代港湾都市が津波災害に襲われて大惨事が発生する可能性がある。津波による被害を防ぐには、構造物などハード整備だけに頼るのではあまりにも巨額な費用がかかるし十分とは言えない。情報の伝達などソフト面の充実も急がれる。市民の皆さんには何よりも、津波災害の恐ろしさをよく理解し、周りの人たちに伝えてほしい。

★ワークショップ特別講座の開催

昨年度本大学を修了した「市民安全推進員」の皆さんを対象にした上級コースの一環として、11月1日に「ワークショップ手法を学ぶ特別講座」を開講しました。ワークショップ手法というのは、話し合いの過程にさまざまなゲームや仕掛けを取り入れることで円滑な合意形成をはかるものです。この講座で学んだ手法を、地域での安全まちづくりに生かしていただければと考えています。

今回の講座で紹介した
ワークショップ手法

- 自己紹介ゲーム
- ウィッシュポエム
- ロールプレイ
- ブレンライティング
- 人気投票ゲーム



さまざまなワークショップ手法を、寸劇風に紹介



学んだ手法をさっそく活用して、環境問題や教育問題などを話し合う

アメリカの郊外住宅事情④異質階層排斥・多元化社会の原理

アメリカの郊外住宅が大きくて美しいことを維持している理由を考える上でのエピソードを1つ紹介する。

カリフォルニア大学サンジエゴ校（CASD）の客員教授として1年間赴任した桜美林大学のM教授の貸家契約の話である。M教授は外交官経験があり、海外での生活経験も豊富である。1年間の滞在中の住宅を探すため、不動産業者に、自分が日本人でCASDの客員教授であり、予算と住宅の規模等の条件を示したところ、家賃は少し高いが貴方にぴったりの物件が郊外の住宅地にあるといわれた。今すぐ見たいと申し出たが、業者は明日にして欲しいと言う。翌日家を見に行くと、ゴルフ場が裏庭につながる緑いっぱいのきれいな住宅であった。物件の隣で庭の草花の手入れする隣人一家の人たちから気楽に挨拶された。さらに近くの住人たちも寄ってきて、気楽に声をかけてくれた。

住宅の間取りや住環境に満足し、隣人達も良さそうで安心できたので、是非に契約したいと言うと、家主に相談するから少し待ってほしいと言う。ホテルで待つこと数時間、家主からの返事をもらってきた不動産業者は契約することと、家賃は提示した額より少し安い額でよいとのことで、彼は狐に摘まれたような気分であったが早速契約した。

結局この二日間のやりとりは何だったのか。M教授によればコミュニティに入る選考試験であろうという。まず一日おいたのは、本当にCASDの教授かどうかを調べ、隣人たちに明日下見のことを告げ、隣人たちに面接を要求した。そして当日、隣人たちは直接会った上で、隣人としての審査に了解が得られたので、家主は契約することにした。さらに当初提示の家賃と再提示の家賃に差があるのは、当初少し高めの家賃を設定し、経済的な障壁を設け、契約者の支払い能力をチェックするためではないかと推測した。この推測は正しいであろう。

このエピソードは、アメリカンドリームを実現し、手に入れた緑豊かで住環境の優れた郊外住宅に住み続ける中間階層の人たちの、低所得層等の異質階層が彼らのコミュニティに入ってきて、保持続けた財産価値を失われないようにするためのもう一つの方法である。前回紹介した経済的に排斥する「排他的ゾーニング」と、この社会的に排斥する方法とあわせて住宅環境と資産の保持に努めているのである。つまり、近隣住民でフォーマルなコミュニティ組織を形成し、住民間で

締結する私的約款により、コミュニティへの入会を審査し、異質階層の入居可能性を阻止するものである。

この基本原理は「異質階層排斥の原理」といわれ、入植当時のコミュニティ保持の中に原型がみられる。ニューイングランドに形成された初期のピューリタンの社会では、コミュニティは教会を中心に形成されたが、教会と個人は自由意志による契約を結ぶことを前提とし、コミュニティに参加を希望するものに対して、会員による厳格な審査がなされ、背徳者や無関心者は排除されることとなった。しかもこの原理を直接民主制によりコミュニティの住民の身体と財産を守るための公共の権限として認めた歴史のあるものである。

この原理はその後のアメリカが多民族国家の形態を維持する上で必要な原理になっている。多民族が同じところで生活すれば、必ず紛争が発生し、治安は大きな負担となる。そこで、一方で異質階層を排除しつつ、同じ民族や価値観を有する人々が一箇所に集まり、独自の言語文化や生活文化を維持する多元的な価値を認めあって、無用な衝突を避けている。

こうしてできた街として多くの大都市にある、「チャイナタウン」や「コリアタウン」等は一般市民も訪れるほど活気と親しみのある街になっている。



写真 ロスアンゼルス市のチャイナタウン

また、サンフランシスコでは、いわゆるゲイと呼ばれる人達の住む街を市民が認め、さらに驚いたのは、ゲイの祭りがあり一般市民も参加し、一緒にパレードしていた。これがアメリカの多元化社会の実態である。

今回は異質階層社会であるが、多元的に価値を認めあうことについていかに平等な社会を作ろうとしているかの現状について考える。

（神戸市都市計画局アーバンデザイン室 中山久憲）
〈参考文献〉・渡辺俊一「アメリカ都市計画とコミュニティ理念」 技報堂出版 1977

まちせん ライブラリーニュース

こうべまちづくりセンター図書室
 まちづくり会館 4階・Tel 361-4523
 開館時間：午前10時～午後6時
 休館日：毎水曜日・年末年始

11月の新着図書

	書名	著者・編者名	出版社
1	ニュータウンは今	福原 政弘	東京新聞出版局
2	地域共生のまちづくり	三村 浩史 外	学芸出版社
3	地域経済活性化事例集	建設大臣官房政策課	大成出版社
4	未来の都市への挑戦	磯村 栄一	ぎょうせい
5	これからの家	快適住居研究会	鹿島出版会
6	永住できるマンション Part2	先田 政弘	日経BP社
7	工事写真の撮り方 建築編	建設大臣官房営繕部	公共建築協会
8	橋の文化誌	三浦 基弘 外	雄山閣出版
9	日本百名橋	松村 博	鹿島出版会
11	新しい交通まちづくりの思想	太田 勝敏	鹿島出版会
12	都市デザイン-3次元・4次元のまちづくり	石井 一郎 外	森北出版
13	緑空間のユニバーサル・デザイン	日本造園学会	学芸出版社
14	ふれあい空間のデザイン	清水 忠男	鹿島出版会
15	ランドスケープ・デザイン	佐々木 葉二 外	昭和堂
16	震災関係訴訟法	塩崎 勤 外	青林書院
17	都市計画法規概説	荒 秀 外	信山社
18	地方分権推進計画	総理府	大蔵省印刷局

当センターにふさわしい図書・資料をご紹介ください。担当、調査係 橋本

まちづくり会館からののお知らせ

こうべまちづくり会館 地階ギャラリーの予定

期 間	内 容・テ ー マ	主 催 者
12月3日(木)～8日(火)	神戸サンフォトクラブ展	妹尾 太郎
12月10日(木)～15日(火)	ポタニカルイラストレーション	飯野 佳代
12月17日(木)～22日(火)	日本水彩画会兵庫県支部小品展	木村 重夫

こうべまちづくり会館 1階オープンギャラリーの予定

12月の予定	地下鉄海岸線パネル展	神戸市交通局海岸建設室
--------	------------	-------------

すまい・まちづくりのご相談は

- すまい・まちづくり人材センター
 (こうべまちづくり会館 3F)
 電話 078-361-4377 FAX 078-361-4584
 受付は、月・火・木・金曜の午前10時～午後5時
- 祝日・土・日曜は
 まちづくり相談コーナー で受け付けます
 (こうべまちづくり会館 4F)
 時間は、午前10時～午後5時

自治会活動などのご相談は

- コミュニティ相談センター(まちづくり会館 4F)
 会報等の印刷サービスや学習会へのインストラクター派遣など
 受付は、午前10時～午後6時
 電話 078-361-4565



〒650-0022

神戸市中央区元町通4丁目2-14

電話 078-361-4523

FAX 078-361-4546